

赤木文庫藏寬永板複製

犬子集

下

古典文庫

赤木文庫藏寛永板複製

犬子集

下

古典文庫

古典文庫 第二四三冊

昭和四十二年十月十五日 印刷発行

非売品

解説者 中村俊定

発行者 吉田幸一

下集子犬

東京都文京区本郷一丁目十二ノ七

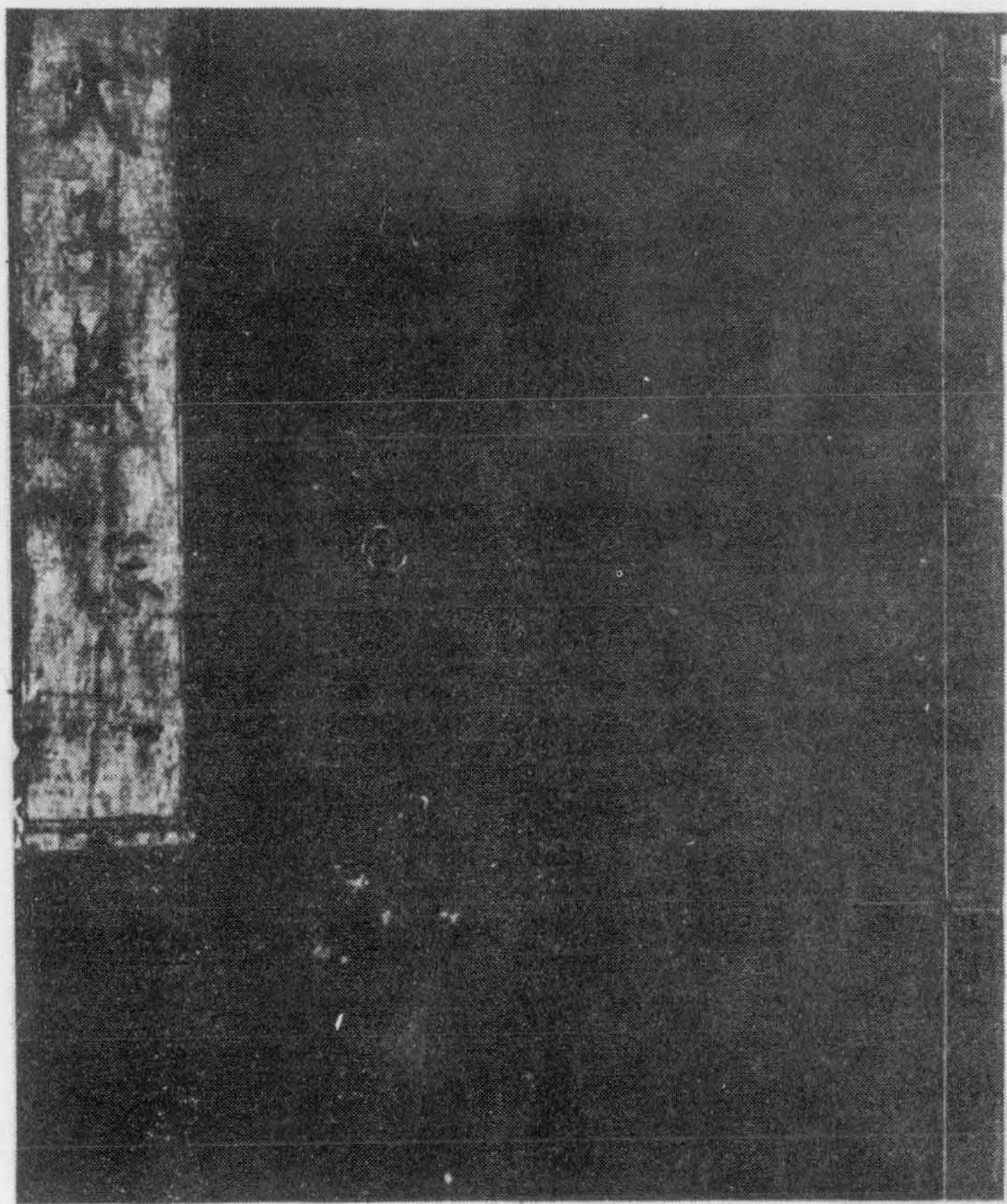
印刷者 甲田印刷株式会社

発行所

東京都(王子局区内)
北区西ヶ原三ノ三四

古典文庫

振替口座東京一四五九七番



狗摛集卷才七

春

正へて天下れ事ありて

まふ神よ一花ひくら梅をて 貞徳

いふひりうらふなるあ

正月のまふしとまふのさふて

厚ふもあくや桂堂

天ふよねとあくや梅花

吟もるあや聖とあふ

堂乃あふふとれ鳴りー 車頼

まのふさりーさる山風

貞徳

舟もやーとじさちたをそく

山くれ庭乃衣多山今

言の帯とやまひら山かひ

やせーと梅送庭もあは

まーそけの基とーうら

親王

うらえん切やあさう

蟹乃ほは川雀子やー柳

主君

くれあさう乱忍さる

あさけの提乃柳風さる

蛇乃果ハて多きを門

龍見取あまきさる約つる龍乃 貞徳

龍穴乃や小舎れ龍の龍

蛇乃多紙の蛇乃さるる乃 曰

龍井にさる龍と漢乃

龍乃木柱の蛇乃さるる

あまきさるひひり龍は龍山

二千中も乃龍乃龍乃木 龍主

源乃木乃月乃さるる

龍乃と龍乃乃乃乃乃春 貞徳

ともうとゆつて、誦誦する
 政つて、我の本意の誦誦を
 我の中に物のようき
 寒霜の馬の鞍より、西登
 舟ん、さうなり、人を見ん
 へ、と、我を見ん、我を見ん
 里ん、いふ、と、人を見ん
 誦誦を、誦誦する、誦誦
 目つて、と、と、と、と、と、
 屯のつて、と、と、と、と、と、
 良徳

中ま紙のなむのちま
 見を反折う揚う揚廻一正
 命臣の却も用公の正
 形うとまうと垣も八重撫
 日
 揚うあてを人ぞのう境
 遠山鳥のうけうのう芳
 花友
 越はまもあめつはまも
 手紙見うとちなるくは山
 徳え
 と奥列のまふとちあ
 垣はうらうとちうにま
 垣

何うと見えたりあはれ玉

をばささるる様乃むのぬ
まね

わひすううふまねお座あ

なふれ花とも作る詩の金
月

海うら山ううまぬ乃玉

海棠のむさううくひきま
月

まもあてまのまね

まふいんと二尺四尺山うう
月

おとるまに葉あううひる

塩金ねる葉あううはくじ
月

力結るれくふ麻とん
胡蝶花垣ふとふ麻とん
徳

首よふせふ日新く
梅初るう二月ふ麻とん
貞徳

堂ハ妙法新結とん

宮ハ結ふとん廿八人

チとん一方梅のふれ枝

雷圓とんわあつとんあつとん
里一

商人ハ似あつとんあつとん

まふとんあつとんあつとん
あま

くらからあきくー日まひまも 日
 やー以ーろ花のあき
 長用あもあきひてくろ田子浦 里一
 くらまーらりーむ海の袖
 春あーく南のあきまもーら 月
 かーまひひやとすまーらん
 まそもさーくねまの場
 あれーろふからねんらん
 汁鍋く味あきまーらのまじ
 まあまーらあきまーら

御夢持し毎日乃信 親王

ま白れ里にゆらうあま

ゆさきとんあ紫のともあ袖 徳え

夜く人乃とあきうあ

わやつか山のふ蔭たうさり 月

鬼能くひつあ代うあ

あ物乃のうやあふあうん

あのかさふ袖華のあふ

春の天子もきさやあうあ 友

あをれあうあうあうあ

肥りくちまきそ桂帝也 貞徳

えんふまの年つらき
あひもやうきうらまふ一の言
まうてゆふ房のまき
や利うらゆふ燕らん月 一山
むくきうと盛とえき
蛙やしゆふ山やあり 親王
あうとまふ之んち
ほそふきふれけり水
おほひくきおほく梅

爰に決すまゝなる故に
 七重いまに山成りて
 月を望みし年又月の
 きらきらき桂を望み
 台川へ油をもちて春の
 燈籠の火のけりとも
 年の以月の水ぬきて
 玉成る心平やんとも
 お座敷の二月書とまりて

花

花